

# 五島市水道事業ビジョン

## 【概要版】

＜五島市水道事業基本計画＞

～安全で良質な水を安定して供給しつづける水道～

## 1. 策定の趣旨

五島市水道事業を取り巻く諸課題に適切に対応し、より高度で現実に即した給水の安定と事業経営の合理化を目的に「五島市水道事業ビジョン」を策定します。

また、計画は中長期的な計画であるため、経営環境などの変化をとらえ、一部改訂や新規策定も想定しながら諸課題に挑戦します。

## 2. 目指すべき理想像

「持続」「安全」「強靱」の観点に留意した事業の経営に取組み、目指すべき理想像を『**安全で良質な水を安定して供給しつづける水道**』と定めます。

## 3. 計画期間

平成31年度から平成40年度まで  
〈10年間〉

## 4. 計画の位置付け

【国(厚生労働省)】  
「新水道ビジョン」

【 県 】  
「ながさき21水ビジョン」

【 市 】

まち・ひと・しごと創生  
人口ビジョン・総合戦略

### 【 五島市水道事業ビジョン 】

〈五島市水道事業基本計画〉

～安全で良質な水を安定して供給しつづける水道～

持続

安全

強靱

五島市水道事業経営戦略  
同アクションプラン(3か年間の実施計画)  
五島市水道長寿命化計画  
五島市水安全計画・・・etc

## 【収益的収支(千円)】

科目	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
1. 収益(A)	544,356	631,944	633,156	618,381	918,277
1) 営業収益	530,753	520,792	519,501	515,556	657,720
2) 営業外収益	13,603	111,152	113,655	102,825	260,557
2. 費用(B)	493,737	562,610	553,865	540,327	854,679
1) 営業費用	409,743	482,431	479,504	470,493	772,967
2) 営業外費用	83,994	80,179	74,361	69,834	81,712
純利益((A)-(B))	49,287	58,437	79,234	77,950	59,045

## 【資本的収支(千円)】

科目	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
1. 資本的収入(A)	41,313	20,598	62,888	22,174	132,588
1) 企業債	19,900	0	39,600	0	49,900
2) 一会出資/負担/補助金	17,420	18,023	20,775	20,859	81,916
3) 工事負担金ほか	3,993	2,675	2,513	1,315	772
2. 資本的支出(B)	273,372	308,671	330,557	308,442	421,028
1) 建設改良費	91,402	116,603	130,933	101,750	111,682
2) 企業債償還金	181,870	192,068	199,624	206,692	309,346
補足額((A)-(B))	△231,959	△288,073	△267,669	△286,268	△288,440

## 【収益的収支(千円)】

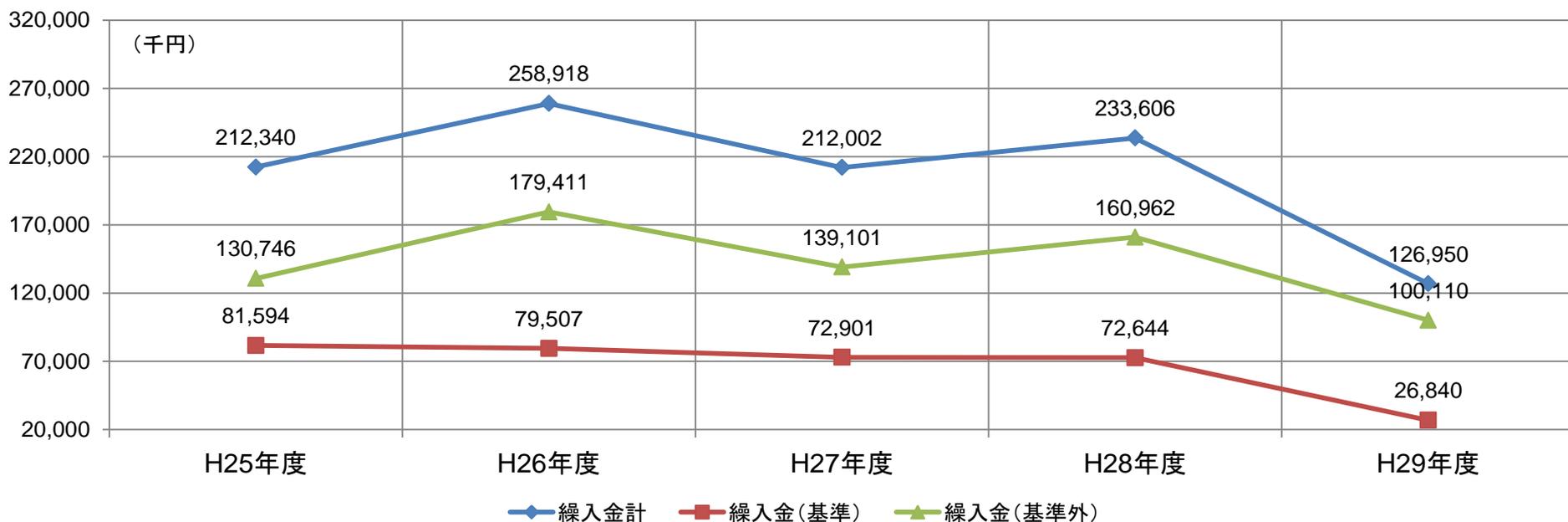
科目	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
1. 収益(A)	354,408	325,188	302,837	295,355	113,179
1) 営業収益	218,646	216,409	214,153	212,774	54,147
2) 営業外収益	135,762	108,779	88,684	82,581	59,032
2. 費用(B)	268,287	267,090	239,979	229,811	90,247
1) 営業費用	232,458	233,458	209,116	201,924	80,262
2) 営業外費用	35,829	33,392	30,863	27,887	9,985
純利益((A)-(B))	86,121	58,098	62,858	65,544	22,932

## 【資本的収支(千円)】

科目	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
1. 資本的収入(A)	173,650	312,347	278,805	349,847	63,357
1) 地方債	65,400	68,100	68,700	92,000	10,400
2) 一般会計補助金	78,103	152,041	124,208	152,780	41,126
3) 工事負担金ほか	30,147	92,206	85,897	105,067	11,831
2. 資本的支出(B)	259,771	370,445	341,663	415,391	86,289
1) 建設改良費	123,973	238,862	191,238	253,159	25,877
2) 企業債償還金	135,798	131,583	150,425	162,232	60,412
補足額((A)-(B))	△86,121	△58,098	△62,858	△65,544	△22,932

【一般会計からの繰入金の状況(千円)】

項目	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
1. 収益的勘定への繰入	134,237	106,877	87,794	80,826	67,562
1) 基準額	31,917	28,548	20,317	19,547	8,578
2) 基準外額	102,320	78,329	67,477	61,279	58,984
2. 資本的勘定への繰入	78,103	152,041	124,208	152,780	59,388
1) 基準額	49,677	50,959	52,584	53,097	18,262
2) 基準外額	28,426	101,082	71,624	99,683	41,126
繰入金計	212,340	258,918	212,002	233,606	126,950
1) 基準額	81,594	79,507	72,901	72,644	26,840
2) 基準外額	130,746	179,411	139,101	160,962	100,110

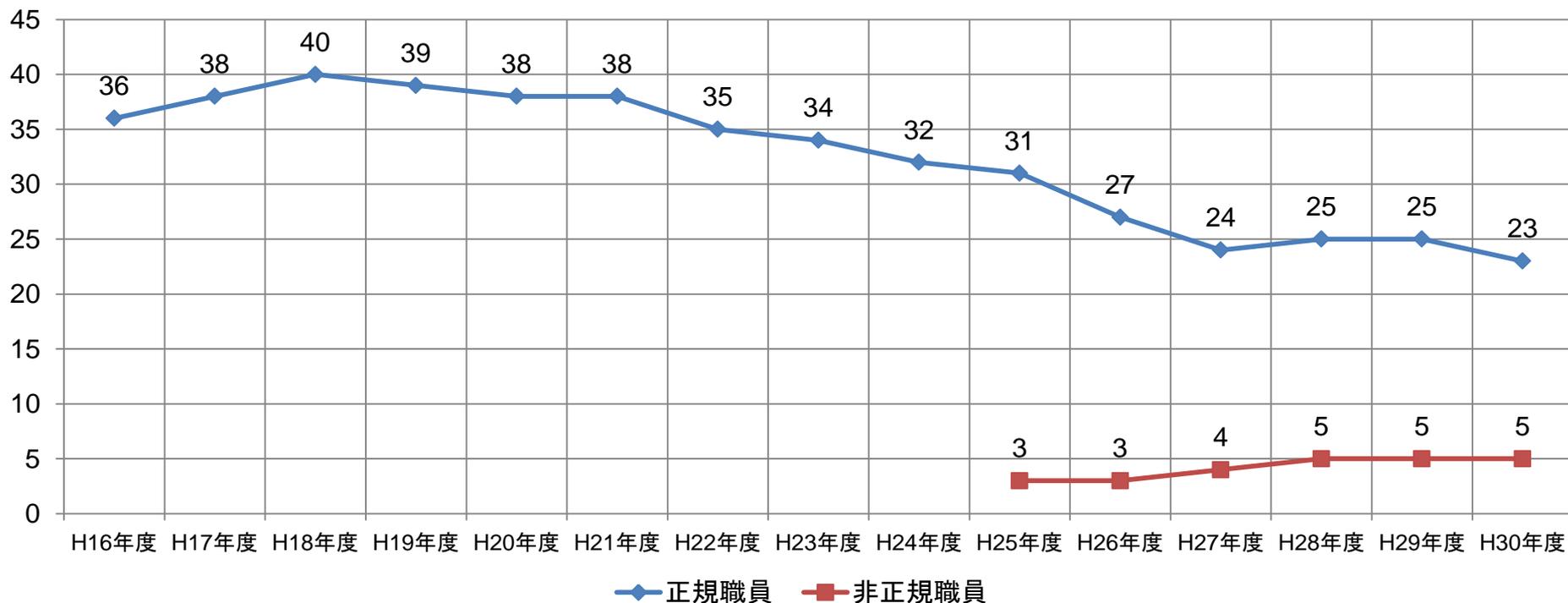


## 伸びない収益

人口減少による料金収入の減少や、老朽化した水道施設が大量に更新時期を迎えるなど、経営環境が厳しくなることが想定されます。(2、3ページ参照)

## 組織の技術継承

※職員数の推移(人)



## 類似団体との比較

「公営企業経営比較分析表」を活用し、経営指標ごとに現状と課題を分析します。別添の分析表参照。

### 給水人口と給水収益の動向

給水人口の減少は、住基人口の減少より緩やかであるものの、引き続き、市全体の給水人口と給水収益(料金収入)は減少していくものと想定しています。なお、平成29年度末の水道普及率は、上水道で99.28%、簡易水道で93.58%、全体で98.86%となっています。

### 区域内の需要の見込み

将来の需要見込みについては、現在より増加する要因は見当たらず、その動向を確認しながら、本計画はもとより、その他の計画についても一部改訂や、新規策定も想定し具現化に取り組む必要があります。

### 施設の効率性

水道施設は耐用年数を経過したものが多く、老朽化による大量更新時期が到来しつつある状況です。更新事業の実施については、経営・財務状況はもとより、水道施設の統廃合やダウンサイジングを原則とした検討が必要です。

### 水源の汚染

水質については、水道法による水質検査において「不適」の評価はないものの、水源のリスクを想定した対応、クリプトスポリジウムなどの対策、そして豪雨等による高濁度原水対策など、水源環境を踏まえた対策が必要です。

### 施設の老朽化

管路を含む水道施設の老朽化が進み、大量の更新時期を迎えつつあります。老朽化した施設は、平常時の水圧、水量、水質面において機能低下の原因になります。

耐用年数の1.5倍を基準に延命化するとともに、施設の統廃合や補修・点検などを実施し、更新経費の平準化を図ります。

### 資金の確保

水道事業の経費(資金)は、水道料金収入によって確保されることが求められます。

水道料金の直近の改定は平成19年度で、その目的は一市五町の合併に伴う料金の統一でした。改定の基準が水道事業(上水)の経営状況であるため、簡易水道事業の地方公営企業法の適用後の財政基盤強化が課題となっています。

水道料金の改定は、市民の皆様にご負担増を求めることであるため、適切に取り組みます。

### 職員数の減少

組織内の技術をどのように継承するかということは以前から課題となっていました。今後の水道事業には、高度な技術基盤に立脚しつつ、適正規模を意識した施設更新計画の策定とその実践が求められますが、これからも職員数の減少が続くものと想定され、職員の事務力及び技術力の確保対策が不可欠です。

## 理想像と施策の体系

現在の水道事業基本計画の基本方針を踏襲し、理想像を具現化するために、「持続」「安全」「強靱」の観点に留意しつつ、50年、100年先を見据えた施策を展開します。

### 理想像

『安全で良質な水を安定して供給しつづける水道』

#### 持続

1. 事業経営の健全化
2. 市民サービスの向上

#### 安全

3. 安心・安全な給水確保
4. 環境にやさしい水道

#### 強靱

5. 災害対策の充実

### 目標

## 1. 財政の見通し

現在の水道事業(上水)の経営状況は、業務指標などから判断して健全な状況にありますが、人口減少や高齢化により給水収益は減少し、老朽化した施設更新費用の増大が見込まれるため、厳しくなることが予想されます。

簡易水道事業の地方公営企業法の適用や、施設の統廃合などを見込んだ財政見通しについて試算します。

### 水道ビジョンにおける財政見通し(抜粋)

簡易水道と水道事業を統合。収入の増。

	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度
料金収入	641,775	680,492	673,601	666,817	660,138
純利益	12,600	△39,053	△26,552	△17,319	△14,001

# 第6章 ビジョンの実現に向けた計画の進捗管理

## 進捗状況の管理と計画の見直し

計画の施策の実施には、定期的に進捗状況を確認することが必要です。計画は10年間ですので、今後の社会情勢などによって大きく変化する可能性があります。5年後に中期的な見直しを行い、併せて実績評価と財政的な検討を加えて、効果的に進行を管理します。